

地域に有用な人材養成へ

奈高専と 県内企業が特別講義

奈良工業高等専門学校は8日、奈良中央信用金庫(田原本町)と連携した県内企業による特別講義を、大和郡山市矢田町の同校で行った。

文部科学省の「地

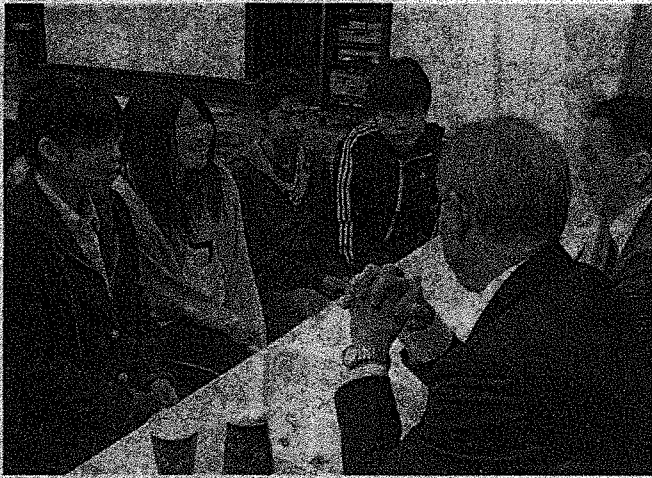
(知)の拠点大学による地方創生推進事業の一環で、平成27年度から同校と奈良女子大学が協働実施している事業。学生に魅力のある就職先の創出と、地域の求める人材の養成

により、地方創生の中核となる「ひと」を地方に集積することを目的としている。同事業での政治経済

の授業は3年生を対象に計8回実施。このほか、県内企業5社が協力する特別講義が今月上旬にも講義あり、8

日は大阪化学工業(広陵町)と、品川工業所(田原本町)の関係者が話した。食品製造機械を製造、販売する「品川工業所」の講義には、電気工学科の学生44人が出席。同社の概要とともに技術担当者から開発時の苦労話などを聞いた。

その後、地域の課題を解決を図る取り組みとして、班別に考えた商品や事業のアイデアを同社と同金庫の担当者にプレゼンテーション。助言を受けた。同科3年、加太文絵さんは4人のメンバーと、奈良に日本の中心的な博物館をつくることを提案。助言をもらい、自分たちの計画の甘さを理解できた。地元について知る機会にもなったと話した。



商品や事業のアイデアを説明する学生(右)と、大和郡山市矢田町の奈良高専

「平成28年11月9日の

奈良新聞朝刊」